

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第10週	第9週	第10週		第9週		第10週		第9週		第10週		第9週		第10週		第9週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	730	1032	106	137	142	178	50	52	73	42	7	28	28	91	49	57	41	45
咽頭結膜熱	29	14	2	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	150	145	13	0	16	0	10	0	12	0	0	0	0	0	3	0	4	0
感染性胃腸炎	181	160	37	15	29	12	35	3	28	7	0	4	0	3	2	8	1	2
水痘	14	14	2	4	2	0	1	3	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0
手足口病	9	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	23	46	0	2	4	3	0	2	4	2	0	0	0	0	0	0	0	1
突発性発疹	32	28	6	0	3	0	3	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	8	4	3	0	3	4	0	0	1	0	3	0	2	4	0	0	0	0
RSウイルス感染症	12	18	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0		0		0
流行性角結膜炎	11	11	0	2	0	2	0	1	0	1		1		1		0		0

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況

流行中	<p>〈インフルエンザ〉 インフルエンザは高熱、関節痛等全身の症状が突然現れます。併せて普通の風邪と同様、鼻汁、咳等の症状もみられます。まれに、乳幼児は脳症を、高齢者は肺炎を伴うなど、重症化のおそれがありますので、早期受診を心掛けてください。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>	<p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌等を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p> <p>※接触感染 細菌等が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻繁に人が触れる場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p>
小流行中	<p>〈咽頭結膜熱〉 アデノウイルスの感染により、38~39度台の発熱、のどの痛み、結膜炎といった症状を引き起こす、小児に多い病気です。患者とのタオルの共用など綿密な接触は避けましょう。</p> <p>〈A群溶血性レンサ球菌咽頭炎〉 A群レンサ球菌による上気道の感染症です。菌の侵入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こします。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p> <p>〈流行性耳下腺炎〉 ムンプスウイルスによる感染症です。片側あるいは両側の唾液腺の腫脹を特徴とするウイルス感染症であり、通常1~2週間で軽快します。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>	

県内のインフルエンザ患者報告数が警報解除の目安を下回りました。

- 県内インフルエンザの1地点あたりの患者報告は第10週に8.80人となり、警報解除目安である10.00人を下回りました。
- 医療機関からの患者報告は続いているので、咳エチケットや手洗い・うがいなどの基本的な感染予防対策を実施しましょう。
- 今シーズンは2種類のA型が流行しています。シーズン中に2回A型に感染する方もいますので、1度感染した方も注意が必要です。

※国内のインフルエンザウイルス検出状況

- 2019年第4~8週
- ・AH3亜型 (67%)
  - ・AH1pdm09 (31%)
  - ・B型 (2%)

出典：国立感染症研究所 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>)



MRワクチンを受けていますか？

- 全国的に風しんが、関西地方を中心に麻疹が流行しています。どちらも予防接種を受けることが、最も有効な予防方法です。
- 風しん・麻疹は定期予防接種です。時期をずらして2回予防接種を受ける必要があります。特に小学校入学前1年間で受けることを忘れてしまう場合がありますので注意してください。
- 接種時期 第1期：1歳以上2歳未満  
第2期：5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の1年間
- 定期予防接種以外にも自己負担で予防接種を受けることは可能です。希望される場合は主治医に相談しましょう。

